

【タイトル】

大学教育と「絵本の世界」(中巻)
—憲法・戦争・教育改革、
3.11東日本大震災と子ども・教育、
いじめ問題を考える—

【著者】前島康男



2015年10月15日発行
創風社 定価本体2,200+税

本書は3.11以降の4年間の学習・研究・教育実践、そして、調査を集約したものです。
上巻『大学教育と「絵本の世界」—障害児・いじめ・不登校問題を考える—』の続巻。

【タイトル】

地図から「よのなか」を見てみよう!
(全5巻)

【監修】加藤哲三・小林みゆき



2015年11月2日発行
旬報社
セット定価本体12,500+税

- ①わくわく!自分で地図をつくっちゃおう
- ②なるほど!地図からくらしが見えてくる
- ③知ってる?キーワードでおぼえる47都道府県 北海道～近畿
- ④知ってる?キーワードでおぼえる47都道府県 中国～九州
- ⑤大事だね!地図からわかる&考える 防災と安全

【タイトル】

言語の自然な学び方

【著者】セレスタン・フレネ
訳者 里見実



2015年11月15日発行
株式会社太郎次郎社エディタス
定価本体3,500+税

人間は立つこと、歩くこと、しゃべることを身につけていくのと同じ道筋をたどって、読み書きを学ぶことができる。すなわち実験的模索によってそれを学ぶのだ。(帯より)

【タイトル】

よい教育とはなにか
—倫理・政治・民主主義

【著者】ガート・ビースタ
訳者 藤井啓之・玉木博章



2016年1月15日発行
白澤社 定価本体2,200+税

測定と成果主義にもとづく学力幻想から私たちを解放し、民主主義と教育を結びつける新しい学びの様式へと誘う。
18歳選挙権の時代の新しい教育の姿を求めるすべての人にとって、必読の書である。(小玉重夫)(帯より)

【タイトル】

村山士郎教育論集
Ⅵ日本の学校づくりとロシア学校史研究

【著者】村山 士郎



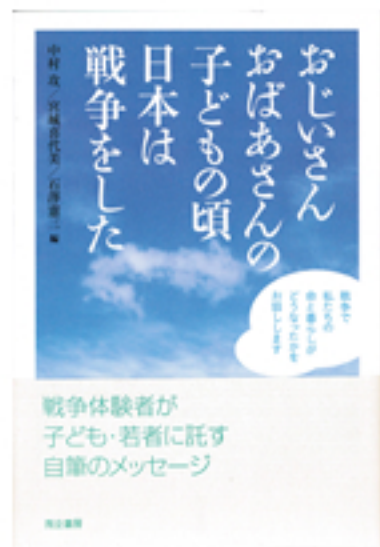
2015年10月4日発行
本の泉社 定価本体2,500+税

日本の学校づくり実践研究の諸論文を収録。博士論文のテーマであったロシア・ソビエト研究が日本の教育にとってどのような意味があったのか。

【タイトル】

おじさんおばあさんの子どもの頃
日本は戦争をした

【著者】中村攻 宮城喜代美
石澤憲三 編



2015年9月20日発行
而立書房 定価本体1,000+税

戦争体験者が子ども・若者に託す自筆のメッセージ

【タイトル】

18歳からの選挙Q&A

【著者】全国民主主義教育研究会編



2015年9月15日発行
同時代社 定価本体1,600+税

18歳選挙権導入へ！
教育現場に求められる主権者教育とは？政治的中立とは？高校生も選挙運動をしてもいいの？
メリット・デメリットは？未成年者が選挙権を行使するために答えます！

【タイトル】

村山士郎教育論集
Ⅴ教師の生き方と教育実践の創造

【著者】村山 士郎



2015年9月5日発行
本の泉社 定価本体2,500+税

戦後書かれてきた多くの教育実践記録をどう読むか。そこに、今日の教師たちの方向性を見出すヒントが隠されています。

【タイトル】
村山士郎教育論集
Ⅳ 生活を耕し、心を解き放つ生活綴方

【著者】村山 士郎



2015年8月8日発行
本の泉社 定価本体2,500+税

生活綴方は、日本の教師たちが生み出した世界に誇る教育方法です。しかし、60年代、形式的・技術主義的な指導に陥りました。それを批判した論文も収録しました。

【タイトル】
大田堯・寺脇研が戦後教育を語り合う
この国の教育はどこへ向かうのか

【著者】大田堯・寺脇研著



2015年7月22日発行
学事出版 定価本体1,600+税

教育学研究のレジェンドとミスター文部省の大田堯×寺脇研異色の対談がここに実現
2人がそれぞれに見てきた「戦後教育」を語り尽くし、現在進行中の「教育再生」諸改革に警鐘を鳴らす。そして、2人が描く教育の未来図とは・・・。

【タイトル】
村山士郎教育論集
Ⅲ 社会病理としての少年事件

【著者】村山 士郎



2015年7月4日発行
本の泉社 定価本体2,500+税

80年代後半から、衝撃的な少年事件が多発しました。その事件の少年少女たちの病理の特徴を解明し、その叫びに共感してきた論文を集めています。

【タイトル】
証言記録 市民たちの戦争
1 戦後の動員

【著者】
NHK「戦争証言」プロジェクト編
吉田裕・一ノ瀬俊也・佐々木啓監修



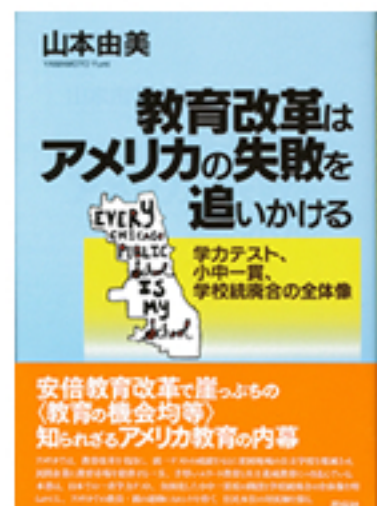
2015年6月30日発行
大月書店 定価本体2,600+税

市井の人々の肉声で語られた“あの戦争”の実態
戦争体験者が長く封じ込めてきた記憶や思いを記録し、その圧倒的なリアリティが多くの反響をよんだNHKのシリーズ「証言記録 市民たちの戦争」を、未放送部分も含めて書籍化。

【タイトル】

教育改革はアメリカの失敗を追いかける
学力テスト、小中一貫、学校統廃合の全体像

【著者】山本 由美



2015年7月25日発行
花伝社 定価本体1,600+税

安倍教育改革で崖っぷちの「教育の機会均等」
知られざるアメリカ教育の内幕
アメリカでは、教育改革を名目に、統一テストの成績をもとに貧困地域の公立学校を増減させ、民間企業に教育市場を提供する一方、手厚いエリート教育と兵士養成教育につき進んでいる。本書は、日本での一斉学力テスト、全国化した小中一貫校の開設と学校統廃合の全体像を明らかにし、アメリカでの教員・親の運動にもヒントを得て、住民本位の対抗軸を探る。(帯より)

【タイトル】

高卒女性の12年
不安定な労働、ゆるやかなつながり

【著者】杉田 真衣



2015年7月21日発行
大月書店 定価本体2,500+税

高校3年から30歳まで4人の語りから浮かび上がるノンエリート女性たちの労働と生活の実態。その生きづらさ現実と実感をもろごと受け止める。
10年先のことは、わからない。それでも、東京で、なんとか今を生きている。
「結婚は1回はしたいなと思うし、かといって家庭をもてるかって言ったらもてないと思うし」「収入か夢かみたい。20歳ぐらいの悩みみたい」「先が見えない。...夢はあるけど実際叶わないし」「今とはちょっと違う自分たちになっているかな
(帯より)

【タイトル】

施設で育った子どもの自立支援

【著者】

高橋亜美 早川悟司 大森信也



2015年6月30日発行
明石書店 定価本体1,600+税

子どもの未来をあきらめない
施設で育った子どもの自立支援
児童養護施設を巣立った子どもの内面や葛藤を詩やエッセイに託したエピソード形式で紹介。現場の第一線で彼ら・彼女らに寄り添う支援者が、その背景やかかわりのヒントを具体的に説明する。
子ども達の問題を自己責任論ではなく社会全体の問題として捉えるために。

【タイトル】

道徳性の教育をどう進めるか
道徳の「教科化」批判

【著者】佐賀 浩



2015年6月20日発行
新日本出版社 定価本体2,500+税

個人の道徳性と社会的正義を結んで考える